

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：82622
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2013～2016
 課題番号：25871183
 研究課題名(和文) 前衛と古典主義：20世紀イタリア美術における美術館と複製媒体の諸機能に関する研究

 研究課題名(英文) Avant-garde and Classicism: Research on Functions of Museum and Replication Media in Twentieth Century Italian Art

 研究代表者
 阿部 真弓 (Abe, Mayumi)

 独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・リサーチフェロー

 研究者番号：60537330
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀の前衛絵画の時代を経験した後の西洋の画家たちにおける「前衛」と「古典主義」的志向の間の諸問題をあらたな視点から再検証することを目指した。本課題の主な成果は、対象とする画家たちの絵画作品と著述、著作と芸術雑誌上の複製図版の分析を通して、次の2つの論題を明らかにしたことにある。1) 19世紀末から20世紀初頭における、絵画をめぐる「秩序」と「古典」の語の意味の多義性とニュアンスの変容。2) 複製媒体および加工可能な画像としての芸術作品の複製図版をめぐる創造的な経験と受容が、20世紀初頭の芸術家たちの芸術史観(とその表象の諸方法)をいかに変容させたかという歴史的過程。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to re-examine from a new perspective the various problems of "avant-garde" and "classicism" faced by European painters after experiencing the period of avant-garde painting in the 20th Century. The results of the present research are mainly the following two topics newly traced through the analysis of works of art, writings by the painters themselves, plates of artworks printed on the pages of books and art-magazines; 1) the ambiguity and the transformation of the meanings of the words "order(ordre)" and "classic(classique)" from the end of 19th century to the beginning of 20th century; 2) the historical process of how the creative experience and the reception by the artists themselves of replication media and replicated plates of works of art as transformable images in the early 20th century has altered their conception of art history and their methods of representation.

研究分野：近現代美術・表象文化論

キーワード：近現代美術 複製技術 美術館学 前衛 古典回帰 モダニズム

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、前研究課題「20世紀イタリア芸術における前衛と古典主義とモダニズムに関する研究」（若手研究B、平成21年度～平成24年度）計画に基づいて、イタリア美術を中心とした20世紀前半の西洋絵画における前衛と古典主義の諸問題に関する調査研究を継続的に実施してきた。本研究開始にあたり、前研究課題において取り組みはじめた「画家による美術史的著述」に関する調査研究をさらに掘り下げるとともに、これまでの調査の中で萌芽をみた新たな課題である「美術館」と「複製媒体」の諸機能と役割に関する調査研究を加え、3つの主軸として研究計画を立てた。本課題において、実際の展示をはじめとして複製媒体上の「頁上展示」まで含めた多様な「展示」を視野に入れて、広く美術作品の「受容」に焦点を当てることとした背景のひとつに、平成24年のCIHA（国際美術史学会）ニュルンベルク大会において、20世紀の芸術作品と複製技術の問題に関する口頭発表（その成果は平成26年度に「主な発表論文」③として刊行された）を行った折の国際的な意見交換の機会を通して、今後上記のテーマにおいてより包括的に研究を進める必要をあらためて認識したことがある。また、対象とする時代の絵画作品に関して、芸術作品と複製技術の問題系から現代的文脈に位置づけ直して論述するという試みは、イタリアにおける学位論文「*De Chirico e la postmodernità: la figura di Ulisse nell'epoca del tour migratorio delle immagini*（デ・キリコとポストモダン：イメージの移民的ツアー時代におけるユリシーズの像）」（平成20年）においてまず試みたものである。関連する先行研究にあらためて徹底的にあたり、絵画史および写真史、芸術雑誌のより広範な調査と併せて、理論的・歴史的射程を更新した上で実施することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、20世紀前半のイタリア美術を主として西洋絵画の創造の場とそれをめぐる言説の場における前衛と古典主義をめぐる諸問題を継続して徹底的に検証することである。本課題においては、特に「美術館」と「複製媒体」が有した諸機能に焦点を当て、絵画史、芸術受容の諸環境をめぐる歴史、芸術作品と複製技術の問題、文化政策史など、多様な観点から学際的に調査研究を実施し、より複合的な分析と現代的文脈から論述を行う。

研究代表者がこれまで行ってきた、形而上絵画、未来派の絵画を主とする1910年代～1920年代のイタリア美術に関する研究と併せ、本研究においてその前後に歴史的射程を広げると同時に、先行研究にない独自の視点を導入して調査研究を実施し、より学際的な調査成果を目指す。

3. 研究の方法

本研究は、研究対象に関して、主に次の3つの調査研究を軸として、作品・展覧会調査および文献資料収集、その比較・考察・分析を行った。

- 1) 画家の美術史的著述に関する調査研究
- 2) 「美術館」の諸機能
- 3) 芸術作品と複製技術の問題

4. 研究成果

年次計画において進行した、研究途上での成果は、毎年、研究論文、調査報告、学術的エッセイ等として執筆刊行した（主要な論文等については以下、「5. 主な研究論文等」を参照）。

(1) 画家の美術史的著述に関する調査研究の主たる成果として、前研究課題より継続して、複数の画家の著述の補填的収集および精読と比較・分析の作業を進めた。主な対象としてきた画家たち（ジーノ・セヴェリーニ、アンドレ・ドラン、アンドレ・ロート、ジョルジョ・デ・キリコ、カルロ・カルラ）に加えて、アメデー・オザンファンとアルベール・ジャンヌレ（ル・コルビュジエ）の『キュビスム以降』『近代絵画』等の初期の著述やフランシス・ピカビアの著述の収集・精読、および各先行研究の把握を進めた。主な対象とする画家たちに先立つ時代の画家たち（たとえばモーリス・ドニ、ポール・シニャック）や同時代の文学者たち（主にギヨーム・アポリネールとジャン・コクトー）の美術批評との比較的考察を踏まえ、19世紀末から20世紀前半の西洋絵画をめぐるテキストにおける「秩序」「古典主義」の意味の多義性とニュアンスの変容を明らかにすることを試みた。特にジーノ・セヴェリーニについては、英テート・アーカイヴにおいて、舞台「パレード」の感想を記した未刊の書簡を発見し、その成果の一部は論文②において発表した。また、モノグラフィー研究の対象としてきたジョルジョ・デ・キリコについては、あらためて全著作の精読するなかで、デ・キリコにおける「美術館」の問題を検討した。

(2) 美術館の諸機能に関する調査研究の主な研究成果は、主として2つの系列に分類される。第一は、本研究課題の対象とする時代における実在の機関としての「美術

館」あるいは概念装置としての「美術館」の諸機能をめぐる調査研究に関するものである。第二は、現代のイタリアにおける美術館および文化財法等に関する文献調査、および現代のイタリアの美術館における諸活動やコレクションにおける20世紀のイタリア美術の位置づけや扱いに関するインタビューと現地調査に基づくものである。

第一の調査については、画家たちの著述の精読、たとえば舞台作品「パレード」の制作旅行の歴史的検証の作業を通して（複数の）「古典」「古典回帰」の意味を考察するなかで間接的に考察することができた。個々の画家における美術館の問題の学際的検証の論述は今後の課題である。

第二の調査においては、イタリアにおける美術館学・文化政策・文化財に関する法律に関連する書籍・研究書・資料を包括的に収集・精読・分析を行った。その上で、21世紀に開館したイタリアの3つの美術館において次の3名（ウフィツィ美術館素描版画部門室長マルツィア・ファイエツァー氏、20世紀美術館館長マリーナ・プリエーゼ氏、国立21世紀美術館建築部門館長マルゲリータ・グッチョーネ氏、*役職はインタビュー当時）にインタビュー調査を実施するとともに、各美術館の調査をおこない、現代の美術館の諸活動および歴史意識のうちに、一例として20世紀イタリア美術をどのように考えているか、イタリア未来派を含めた20世紀の芸術・芸術思想がいかに「生きて」いるか、あるいはまた「社会的包摂」の理念に基づいたいかなる実践がなされているか等、イタリアにおける美術館と文化財とその運営にみられる諸特性と理論的背景を明らかにすることができた。この調査を通して、21世紀の美術館と活動が「分類」から、異分野間の「混合」や多様な「共有」「創造」へ向う志向をみせており、物質と脱＝物質的志向の間でいままさに実験のさなかにあること、またそれらが時としてかつてなかった建築空間に触発されて（すでにある作品や文化財の）創造力と想像性を増すものであることがあらためて示された。

(3) 芸術作品と複製技術の問題をめぐる調査研究の主な成果として、絵画と写真の歴史的関係に関する先行研究の収集と精読、また1910-30年代の芸術雑誌の広範囲な調査を進めた。なかでも、(1)の調査成果と連動させながら、複製図版を通じた芸術史観の表象に関して新たな知見から論述した。たとえば、オザンファンとジャンヌレ『近代絵画』の諸挿図について、前後する複数のテキストおよび絵画作品の星座のうちに歴史的に位置づけ直して分析することにより、「前衛的古典主義」（村田宏）の特質と

を絵画作品のみならず著述と挿図（芸術作品の複製写真図版）のレイアウトからより学際的に明らかにするという本研究課題の主眼となる目的、および新しい方法論をみいだすというもうひとつの眼目をも果たすことができたものと考えている。その一方で、加工可能な画像としての芸術作品の複製図版をめぐる創造的な経験と受容が、20世紀初頭の西洋の芸術家たちの芸術史観および感性を変容させてゆく過程を明らかにし、1960年代以降における「芸術作品」の形式の瓦解を兆すものとして位置づけることに至った。こうした研究成果により、現在執筆中の論文および今後の研究課題の展望が方向づけられた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

① 阿部真弓「彫像の白昼夢—形而上絵画と詩神たちの複製技術時代」『ユリイカ』第684号「特集 ダダ・シュルレアリスムの21世紀」、査読無、青土社、2016年8月、pp.294-310。

② 阿部真弓「冒険と秩序の間—画家たちの著述および芸術誌挿図からみる前衛と古典主義」『日仏美術学会会報』第35号、査読有、日仏美術学会、2016年7月、pp.3-25（フランス語要旨付）。

③ 阿部真弓「古典古代と〈未来〉の共鳴——「パレード」（1917年）と前衛的古典主義の時代」『パラゴネ』第3号、査読有、青山学院大学比較芸術学会、2016年3月、pp.27-47。

④ 阿部真弓「21世紀の美術館と文化財の創造力——イタリアの3つの美術館の事例をめぐって（2）」『国立西洋美術館研究紀要』第20号、査読有（同紀要は第20号より査読制度を導入）、国立西洋美術館、2016年3月、pp.15-28（英語要旨付、「国立西洋美術館リポジトリ」上にオンライン公開）。

⑤ 阿部真弓「21世紀の美術館と文化財の創造力——イタリアの3つの美術館の事例をめぐって（1）」『国立西洋美術館研究紀要』第19号、査読無、国立西洋美術館、2015年3月、pp.49-60（「国立西洋美術館リポジトリ」上にオンライン公開）。

⑥ Mayumi Abe, "Where the Object Finds Its Place?: From Its Birth to the Paginal Exhibition of "Objets surréalistes"", *The Challenge of the Object, The Proceedings of the 33nd Congress of the International Committee of the History of Art, Germanisches National Museum, Nürnberg*, 査読有、『物の挑戦：国際美術史学会第33回ニュルンベルク大会論文集』、ゲルマン国立博物館、2014年3月、pp.808-812。

(4) 研究協力者 ()

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 真弓 (ABE, Mayumi)
独立行政法人国立美術館国立西洋美術館
館・学芸課・リサーチフェロー
研究者番号：60537330

(2) 研究分担者 ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：